

島しょ部（離島）における 居宅介護支援事業所の取り組み



令和6年5月9日

長崎県 対馬市

ケアサポーター すけさん 管理者 根津賢謙



はじめに……

長崎県対馬市

自然：山林面積89%
南北に80 km

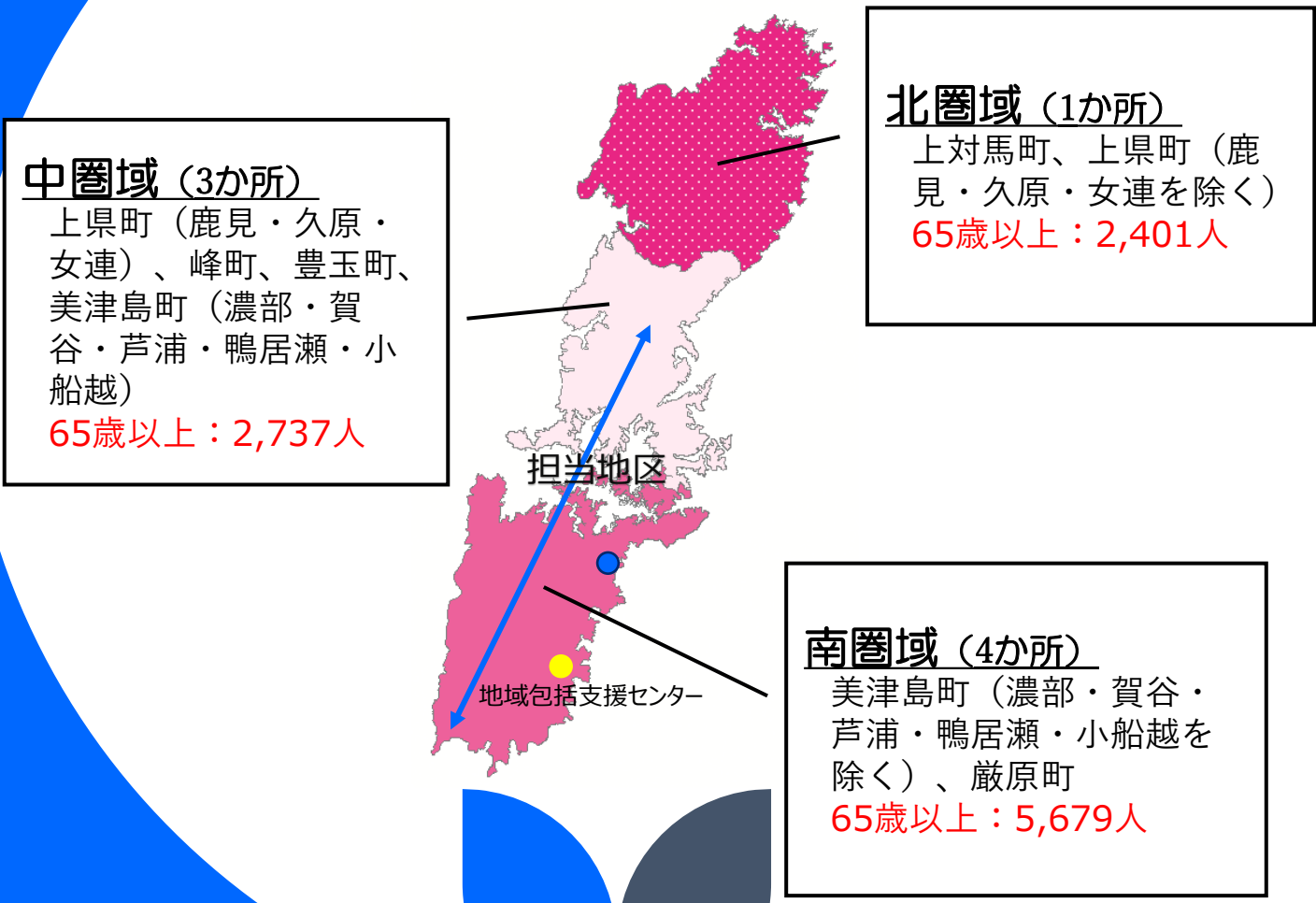
人口：27,416 (R6.3月)

高齢者数：11,153 (R6.3月)

高齢化率：40.3%



対馬市の日常生活圏域（3圏域）



対馬市の介護支援専門員の現状

- 介護支援専門員数（会員） 44名**
 うち、60才以上の介護支援専門員が**31.8%**
 65歳を超えた介護支援専門員も5人在職
- 居宅介護支援事業所数**

1名体制介護支援専門員	1事業所（中圏域）
2名体制介護支援専門員	3事業所（南、中圏域）
3名体制介護支援専門員	2事業所（中、北圏域）
4名体制介護支援専門員	1事業所（南圏域）
7名体制介護支援専門員	1事業所（南圏域）
- 3圏域それぞれに地域包括支援センターがあるが、そのうち主任介護支援専門員が配置されている地域包括支援センターは1圏域のみで1名のみ配置されている状況**

介護支援専門員の魅力 (人材確保)

- ①対馬市の現状と介護支援専門員の魅力発信
- ②社会資源を活用し課題解決を図った事例
- ③自治体等との連携



① 対馬市の現状と介護支援専門員の魅力発信

対馬市の現状

- ① 親が心配で様子を見に行ってしまう
- ② 地区に商店がない（買い物難民）
- ③ 地区が遠くサービス提供できない
- ④ 透析患者や医療処置が必要だが受け入れ可能な施設が不足
- ⑤ 介護支援専門員の高齢化が深刻
65歳以上で現役



ケアマネが板挟みに・・・



介護支援専門員の魅力とは

- ① 利用者の良き相談役(ケアプラン作成)
- ② 感謝の言葉を直接聞ける
- ③ 夜勤なし。仕事の調整が可能
- ④ 専門(医療、障害)の知識習得
- ⑤ 島の小さなコミュニティだからこそ、関係性が強い
- ⑥ フォーマルサービスに限らない助け合い
- ⑦ 頼られる存在(頼らざるを得ない存在)



② 社会資源を活用し利用者の問題解決した事例

介護保険サービスの不足を地域の資源で補完するために介護支援専門員が調整しています。

認定を持っていない認知症のある独居高齢者家族からの相談で、社会資源の情報を含めたあらゆる支援の検討を行い、在宅生活を支援した事例

家族が島外から一時帰省し、親の介護サービスについて相談があった時、他職種に呼びかけ集まり、独居高齢者の服薬管理がしっかり提供できた。

病院受診や買い物に困っている高齢者の外出支援。コミュニティ活動に参加することで送迎支援に結びついた事例

地域活動（サロンなど）に参加することで、地区で送迎車を出して病院受診や買い物送迎を行う社会資源が構築される。（3箇所）

ゴミ屋敷で過ごしている独居高齢者に対し、地区住民や地域包括支援センター、介護支援専門員が連携を図り、家を掃除し適切な環境で過ごせることが出来た事例

元気な時は地域活動に参加していたが、病気でゴミ屋敷に。民生委員から「仲間が困っているから助けたい。」と地域包括支援センターに相談。介護サービスが導入される前に環境を整備できた。

③ 自治体等との連携

- **伝達会議及び事例検討会の企画**
(事業所内で主任介護支援専門員が主体)
- **年2回程度の医療機関主催の連携会議への出席**
(病院、薬剤師、施設、介護支援専門員、包括、保健所)
- **ケース会議、ケア会議 (地域包括支援センター主催)**
(難病、認知症、精神疾患、独居、虐待)
- **その他**
防災研修、支部研修 (年3回)



離島におけるICTの活用

・法定研修が完全オンライン

離島から参加の場合、平均20万円ほどの移動宿泊費が必要だった。今は受講料のみ

・Zoomを活用したサービス担当者会議やモニタリングの実施

島外家族や現地に参加できない事業所が出席。島外病院医療機関から退院時も活用

・音声から文字おこし。会議録の作成

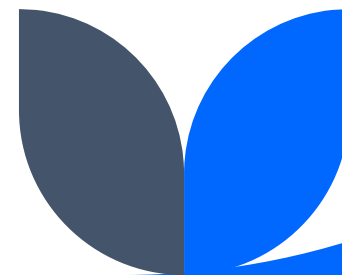
ボイスレコーダーを使用し、文字起こしに活用

・居宅管理業務の効率化、HDD→SSDへ

提携事業所と同じ介護ソフトを使用することで実績入力が短縮(ケアプランデータ連携システムは未活用)

事業所でHDDからSSDへ変えることでパソコンの処理が格段に改善

課題：ネット環境が（電波）が届かない地域が存在する
在宅ワーク環境が未整備



ありがとうございました

